

富士山ノ細菌

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38518

晚發性遺傳梅毒ト云フ稱スルノテアル尙此少年ハ精神的發育ハ比較的良シキガ体格ハ年齡ニ比シ稍發育弱ク又毛髮ノ發生惡シ且生殖器殊ニ萎丸ノ發育著シク惡シキヲ等ハ晚發性遺傳梅毒ヲ診斷スルニ補助トナルベキ徵候デアアル亦余ハ本患者ノ護膜腫性潰瘍ヨリスピロヘーテバルリダ、ヲ檢出セントシテ二回迄染色標本ヲ作りシモ二回トモ陰性ニ終リマシタ

爾后ノ經過ニ付テハ初診當時以來熱心ニ驅梅療法ヲ行フタ結果アングーナ、ヤ扁桃腺部ノ潰瘍ハ全ク無クナツテ、硬口蓋ノ潰瘍周圍部ノ浸潤去リ却テ潰瘍ハ大サヲ増シ己ニ壞疽ニ陥リシ硬口蓋ノ骨ノ一片ハ取レ終ニ穿孔シテ今ハ小指ヲ通過シ得ル様ナ欠存ヲ生ジ言語モ不明瞭トナレリ治療ノ結果潰瘍ガ漸次大キクナリシハ敢テ怪ムノ要ナカラシ何トナレバ一定度迄グンマノ病竈吸取セラルレバナリ病竈全ク去レバ潰瘍ノ大キクナルコトガ停止スルワケデアリマス

本日ハ特ニ餘リ報告ナキ且興味アル珍ラシキ此定型的ノハツチンソン氏ノ齒牙ヲ諸君ニ一寸供覽セシニ過ギマセヌ終ニ臨ミ土肥博士ガ此材料ヲ余ニ與ヘラレタルコトヲ謹テ謝シマス

附記 當日患者ノ寫眞及本患者ヨリ採リシハツチンソン氏齒牙ノ鑲製模型等ヲ供覽セシモ雜誌掲載ハ畧ス

○富士山ノ細菌

兵庫縣防疫事務官

特別會員 松 王 數 男

(戶 神)

富士山ニ於ケル、細菌學的試驗ノ舉行ハ、去ル明治二十九年醫學士横手千代之介氏登山シテ、空氣、土壤、水中等

ヨリ諸種ノ細菌ヲ分離シ、次ニ昨二十九年東京大學衛生學教室ノ佐藤某ガ登山シテ、空氣、及ヒ水中等ヨリ、二十餘種ノ細菌ヲ獲タトノ報告アルモ、以上ノ人々等ハ皆東口御殿場、砂走方面ヨリ登山施行セラレタルモノニシテ、今回余ガ行ヘルハ、西口即チ大宮口(一名表口)ヨリセルモノニシテ、恐クハ此方面ヨリスル、富士氣域中ノ細菌検査ハ、余ガ此行ヲ以テ第一着手ト云テ可イノデアアル、

八月二日正午零時三十八分、三ノ宮驛ヲ發シ、翌三日午前二時静岡驛ニ着、下車シテ待コト三時間、午前五時静岡發、全六時三十分鈴川驛ニテ下車シ、直チニ鐵道馬車ノ便ヲ借リテ、大宮町ニ着ス、

コレヨリ先キ、静岡驛ニテ鈴川行キ發車ヲ待ツ間ニ、不圖指先キヲ刺ス蚊アリ、熟視スレハ正サシク夫ノ「アナフェルス」ニシテ、胴體ヲ倒立シ、鼻尖ヲ指先キノ皮膚ニ刺シ、吸血シ始ムルヲ以テ、直チニ捕獲シテ仮リニ静岡「アナフェルス」ト命名ス、試験室ニ歸着後之ガ解體鏡檢ヲ行フニ、唾腺、其他胃腑中ニ麻拉利亞滴蟲ブラスモザユムノ包藏ヲ認メザリシモ、静岡驛附近ノ沼田ニハ「アナフェルス」蚊屬ノ發生存在スルヲ確メ得タリ、

當日午後二時、(微風アリ、華氏八十一度)大宮町街路ノ空氣ニ就テ、第一回試験ヲ行フ、

蓋シ此空氣、試験ニハ、下記ノ器械ノ方法ヲ撰用セリ、即チ兩端ヲ閉鎖セル、口徑二分ノ滅菌硝子管ノ中央ハニ、長サ約一センチメートル半ノ滅菌脫脂綿ヲ栓塞シタルヲ、數十本用意シテ、試験ニ際シ、硝子管ノ兩端ヲ折り、一方ニ空氣ヲ吸入スル具トシテ、約五十瓦ノ内容ヲ有スル護謨製吸子ヲ携へ、用ニ臨ミテ夫ノ滅菌硝子管ノ一端ニ連結ス、斯クシテ一回ノ試験空氣量ヲ約五千立方仙迷篤爾トシ、即チ百回護謨製吸子ヲ作用セシメテ得タル空氣ハ、皆硝子管内ノ栓塞綿ヲ通竄シテ、所含ノ細菌ヲ沈着セシムルノ裝置トス、故ニ毎回ノ試験ニハ、約五十立方「センチメートル」ノ空氣量(氣温ノ相違ニヨリ多少ノ容積ニ差異アランモ)ニ就テ施コセルモノト知ルベシ、而

シテ一回ノ試験了リタル時ハ、直チニ硝子管ノ兩端ヲ封鎖シテ逐一番號ヲ附シ、容器ニ納メテ、試験室ニ歸着ノ後、此硝子管ヲ破碎シテ、滅菌撮子ヲ以テ栓塞綿ヲ摘出シ、一瓦ノ滅菌水ヲ容レタル滅菌試験管内ニ投シ、充分震盪シテ綿ニ沈着セル細菌ヲ水中ニ流出セシメ、斯クシテ得タル水ヲ寒天培地ニ投シ、「プラットン、クルツウ」ヲ作リテ、發生ノ「コロニー」ヲ検査セリ、

次に土壤、及ヒ水等ノ検査ハ、豫メ携ヘタル有栓滅菌壘ニ採取シ歸リテ後、法ノ如ク施行セリ、

第一回ニハ七個ノ細菌ヲ獲タリ、之ヲ區別スレハ左ノ如シ、

枯草菌屬 五

甲種 三
乙種 二

双球菌屬 二

枯草菌屬ニハ數種アルモ便宜上短太ナルヲ甲種、細長ナルヲ乙種トセリ

次に翌四日午前六時三十分、(殆ト風ナシ華氏七十三度)表口山麓篠坂下ノ空氣ニ就テ、第二回ノ検査ヲ施行セル結果、二個ノ菌ヲ採取セリ、

枯草菌屬 二

皆乙種ニ屬スルモノ

第三回試験ハ、同日午前八時三十分、一合目(通稱カケツバタ)ニ於テ行ヒタルモ、一菌ヲモ採取セス、第四回ハ、二合目(通稱茗ヶ嶽)ニ於テ行ヒタルモ、亦採取菌ナシ、

第五回ハ、同日正午零時三十分、(稍風アリ且ツ霧深シ華氏六十八度)三合目ノ密林中ニ於テ行フ、二菌ヲ採取ス、

糸狀菌 オイヂユム屬 一

巨大菌 一

第六回ハ、同日午後二時三十分、(風稍強シ華氏六十四度)四合目ニ於テ行フ、採菌ナシ、
第七回、五合目ニ於テ行フ、採菌ナシ、

午後三時ヨリ、雨ヲ交ユル強風トナル、寒氣甚ダ加ハル、風雨ヲ侵シテ登リ、午後四時四十分、(華氏五十三度)六
合目ノ空氣ニ就テハ採菌ナク、其石室附近ノ瀦水ニ就テ、○、一瓦中ノ含有細菌ヲ檢スルニ、八個ヲ獲タリ、

枯草菌屬 八

甲種一
乙種一

當日ハ、遂ニ七合目ノ石室ニ於テ宿ル、強風豪雨トナル、翌五日猶ホ風雨止マス、終日石室内ニ蟄居シ、數回室内
ノ空氣検査ヲ行ヒ、平均十個ノ菌ヲ採取シ得タリ、其種類ハ左ノ如シ、

釀母 白色ビール釀母 七

枯草菌屬

三

第十回、七合目石室内ノ飲用水(雪ヲ解シタルモノト言フ)ニ就テ、其○、一瓦ヨリ獲タルハ二個ノ桿菌ナリ、

枯草菌屬

二 皆乙種ニ屬スルモノ

八合目、九合目、及ヒ山巔等ノ、石室外空氣中ニハ、遂ニ一菌ヲモ採取セズ、

六日午前六時頂上ニ達ス風雨止ムモ寒氣頗フル強シ(華氏三十六度)

第十四回、頂上劔ヶ峯ノ岩裂ニ生セル苔ヲ採取シ、ソノ根部ニ附着セル土中ヨリ、二個ノ球菌ヲ獲タリ、

黃金色葡萄狀球菌

二

第十五回、頂上金明水、其○、一瓦中ニ含有スル菌數ハ二個、

橙黃色葡萄狀球菌

二

試験室ニ歸着後、神戸市内ニ供給セラル、上水道ノ水〇、一瓦ヲ採リ、比較試験ヲ行フニ、同シク細菌數二個ニシテ、(皆非病原菌)一瓦中ニハ二十個、百八十瓦、即チ一合ノ中ニハ三千六百個トナリ、金明水ト同價値ニアリ、第十六回、銀明水中ノ細菌數ニ至リテハ、其〇、一瓦中、實ニ十一個ノ多數ヲ含メリ、今之ヲ區別スレハ左ノ如シ、

橙黄色葡萄狀球菌 二

枯草菌屬

九

甲種四
乙種五

神戸市内某所ノ井水(水質中等)ト比較スルニ、恰モ同一量ノ菌數ヲ有ス、

サレバ富士山頂ノ金明水ハ、恰モ神戸市内ノ水道水ニ等シク、銀明水ハ井水ト等シキ結果トナリ、其細菌數ハ一瓦中百十個、百八十瓦、即チ一合ノ水ニハ一萬九千八百個ノ多キニ達スルナリ、

今之ヲ最初ヨリ概括シテ論スレハ、富士山表口即チ大宮口ヨリスル登山道途ノ空氣ニ就テハ、毎回約五千立方「センチメートル」ヲ採取シ、此中ニ含有スル細菌數ハ、大宮町街路ノモノヲ加ヘテ、全數十一個ニシテ、而シテ一合目、二合目ノ所謂富士裾野ノ展開シタル廣原ノ氣中ニハ、細菌ヲ見出サズシテ、反ツテ三合目ノ密林中ニ二個ヲ得タルハ奇ナリト云フベシ、

三合目以上ノ石室外空氣ニハ、既ニ一個ヲモ見出サス(五千立方「センチメートル」以上ノ大量ノ空氣ヲ吸収シ且ツ試験時間ノ延長ニ頼着セサレバ或ハ猶ホ三合目以上ノ石室外空氣ニ於テモ其ノ存在ヲ證明セシヤモ圖ラレズ、加フルニ此行五合目ヨリ以上ハ雨中若クハ雨後ノ清淨ナル空氣ヲ測リシヲ以テ細菌數ノ減少セラレタルハ至然ノ結果ナラン)

次ニ石室内空氣ニテハ(七合目石室ノミニテ)十個ヲ獲テ、中チ七個ハ皆釀母ナリシハ、奇怪ナルモ、此際七合目石

室中ニハ六十名ニ近キ登山者ハ填充シ居リシヲ以テ、是等ノ人々ノ中ニ、或ハ釀母菌ヲ附着セシメテ來リシモノアリシナルベシ、次ニ水中ヨリ(各〇、一瓦ニ就テ)二十二個ノ菌ヲ獲タリ、此中最モ多キハ、頂上ノ銀明水中ヨリ得タル十一個ナリ、

抑モ金明水、銀明水ナド、稱スルハ、皆頂上岩質ノ間ニ含メル水ノ滴下セルヲ大盤ニ受ケタルモノニシテ、其冷キコトハ水道水ノ比ニアラザルモ、容器ニハ被蓋ナク、人々其周圍ヲ繞リテ喧騒争フテ之ヲ得ントス、小盞一杯一錢ニテ水ヲ賣リ、其場ニテ飲ム者アレバ、或ハ目ニ塗擦スル者、或ハ器ニ納メテ家苞トスル者モアリ、之等ノ人々ニ附着スル塵埃ヨリシテ、細菌ノ水盤中ニ入ルモノ尠カラサルベシ、然ルニ銀明水ノアル場所ニ至リテハ、恰モ頂上ノ東側噴火口内ニ向ツテ、陷凹傾斜セル所ニ位シ、登山者ノ塵埃ヲ蹴立テ、此所ニ降り來ルモノ幾人ナルヲ知ラズ、其ノ細菌含有ノ多キハ、自然ノ數ナラン、

試ミニ思へ、普通ノ井戸水ト異ナラサルナキ、多數ノ細菌ヲ含有セルモノヲ、所謂靈水ト稱シテ、白晝公然高價ヲ以テ販ギ、マタ争ツテ之ヲ求メントスル者ノ多キヲ、世間夫ノ迷信者流ノ盡キザル限りハ、即チ乘シテ奇利ヲ博セントスル者ノ絶ヘザルニヤ、

次ニ、頂上岩石ノ裂隙ニ生セル苔ノ根ノ土中ヨリ獲タル、二個ノ球菌ハ、所在廣汎、抵抗力甚ダ強キモノト知ラレタル、葡萄狀菌球菌ニシテ(黄金色)、金明水及ヒ銀明水中ヨリモ、此種ノ球菌(橙黄色)ヲ見出シタルヲ以テ、試ミニ之等ノ「ピルレンツ」ヲ檢スルニ、左表ニ示スガ如ク、相應ニ保持スルヲ認ム、

接 種 部 位	一 白 金 耳	皮 下	一 白 金 耳	腹 腔
---------	---------	-----	---------	-----

菌物種類名	動物體量	接種前體温	一 日	二 日	三 日	四 日	五 日	六 日	七 日	八 日	九 日	十 日
橙黃色葡萄狀球菌	家兔	千二百二十瓦	三七、二	三七、二	三七、三	三七、五	三七、四	局部膿瘍形成	三七、五	三七、四	三七、四	三七、三
黃金色葡萄狀球菌	家兔	千三百十瓦	三七、三	三七、四	三七、三	三七、七	三七、六	局部膿瘍形成	三七、六	三七、五	三七、五	三七、五
橙黃色葡萄狀球菌	モルモット	五百二十瓦	三六、五	三六、六	三六、八	三六、九	三七、一	斃	死	死	死	死
黃金色葡萄狀球菌	モルモット	五百三十五瓦	三六、七	三六、六	三六、八	三六、八	三七、二	三七、一	三七、二	三七、一	三七、一	三六、八

(備考)

斃死セル「モルモット」一號ヲ解屍スルニ、腸管壁一般充血シ、殊ニ接種部直下ノ腸管壁ニハ出血性炎ヲ認メ、腹腔漿液中ニハ、多數ノ原菌ヲ「ライオン」ニ存セリ、

之ヲ要スルニ、最初ヨリ改メテ一括ニ記載スレハ、此行富士大宮口ヨリ登山シ道途ノ氣中、水中、土中等ヨリ、總

テ四十六個ノ下等「ビルツ」ヲ分離シ、之ヲ内譯スレハ糸狀菌一個、釀母七個分裂菌二十八個(球菌八個桿菌二十個)トナリ、是等ノ菌質ハ主トシテ「ニヒト、バトグチ」ノモノニ屬シ、殊ニ所在最モ廣汎ナル、枯草菌屬ハ、大部分ヲ含有シタリ、

細菌學上興味アルハ、頂上岩裂ノ菌苔ヲ生セル土壤ヨリ、二個、金明水、銀明水中ヨリ、四個ノ葡萄狀釀膿球菌ヲ獲タルコトニシテ、之等ノ球菌ハ果シテ抵抗力強ク、所在マタ廣汎、壹萬貳千尺ノ高地ニ迄潜在シ、然カモ相應ノ毒力ヲ保有スルノ一事ナリトス、(完)

抄録

○一般外科ニ於ケル浸潤

麻醉ニ就テ

ドクトルバーカー(米、東北醫科大學雜誌)

局所麻醉ノ進歩ハ驚クベキモノニシテ近年歐洲各國ニ於テ盛大ニ研究セラレタルハ實ニコロロフォルムトエーテルハ何レカ最モ安全ナルヤト云フ問題ニハアラデ何ヲ以

テ吸引藥(Inhalation)ニ代用センカト云フ問題ナリキ。
 シュライヒ氏ハ外科手術ノ九十%ハ只局所麻醉ニテ遂行スベキヲ公言シマタス氏ハ五十%又ハ六十%ナラント云フ
 局所麻醉ニ三者ノ別アリ
 一、麻醉物質ヲ直接ニ組織内ニ應用スルコト
 二、麻醉物溶液ヲ以テ組織ヲ浸潤セシメテ麻醉セシムルコト
 三、コカイン又ハ他ノ麻醉物質ヲ神經幹ノ周圍ニ注射スルコト